

○議長（初村 久藏君） これで、入江有紀君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を11時5分からといたします。

午前10時49分休憩

午前11時03分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 皆様、おはようございます。会派創政の糸瀬雅之でございます。

まず、令和6年1月1日に石川県能登地方を震源とした地震が発生をいたしました。お亡くなりになられた方々には、心からお悔やみを申し上げますとともに、被災されました方々にはお見舞いを申し上げます。被災地の皆様の安全と一日も早い復興・復旧をお祈りをいたします。

また、1月2日には羽田空港で日航ジャンボ機と能登地方に支援物資を届けるために向かおうとしておりました海上保安庁の小型飛行機の衝突事故もございました。お亡くなりになりました海上保安庁の5名の職員の皆様にも、心よりお悔やみを申し上げます。

さて、対馬市議会では、昨年12月1日に、私を含め13人の議員が対馬市政治倫理条例に違反するとの判断がなされました。見解の相違はございますが、市民の皆様、関係者の皆様には、御迷惑、御心配をおかけしたことは事実であり、この場をお借りいたしまして深くおわび申し上げます。今後は、市議会議員としての品位と職責を再確認をし、対馬市民の負託に応えるよう、議員活動に全力で取り組んでまいりたいと思います。

また、昨年9月の定例会の際に、議員定数調査特別委員会が設置をされ、これまでに3回の特別委員会が行われました。議員定数について対馬市民の意見を聞くために、昨年12月20日から今年1月19日までの1か月間で、議会事務局に200名近い市民の意見が寄せられております。結果、意見書の97%が3人以上の定数削減でございました。議員を減らしたほうがよいという意見の中で、議員に対して大変厳しい意見も多くございました。

特別委員会8人で構成をされておりますが、いまだに結論が出ておりませんが、6月定例会までには、私の選挙公約でも掲げました3人削減、市民の意見も3人削減を実現できますように、議員皆様には理解を求めていると思っております。

3人削減により、議員報酬や政務活動費など1年間で約1,650万円、4年間で約6,600万円の歳出削減となり、浮いたそのような財源を、市長のおっしゃいます島の宝である子どもたちのために少しでも財源に充てられればと思っております。

どうか議員皆様、1年先の自分の議員選挙のことは忘れて、まずは議員自らが身を切る改革を

実行し、歳出削減に努めることが大事であると思います。

それでは、一般質問に入りたいと思います。

まず、改めまして比田勝市長、3期目の当選おめでとうございます。今後4年間、集大成で取り組まれるということでございますので、対馬市民、誰一人取り残すことなく、リーダーシップをしっかりと発揮していただき、行政運営をやっていただきたいと思っております。

まず、1点目ですけれども、日本国総理大臣、岸田政権の支持率は20%台と低迷をしておりますが、比田勝市長は2期8年間、市政運営を行われましたが、対馬市民からの支持率は、自分自身どうであったと思われるか、答弁をお願いいたします。

次に、2点目の2050年、対馬市の人口は1万3,000人台まで減少すると予測されておりますが、人口減少により想像される対馬市の姿や問題点は何か考えられるか、市長の答弁を求めたいと思います。

3点目ですが、対馬島内各業種におきましても、働き手（人材不足）が喫緊の課題であります。そこで、対馬市職員の地域貢献を目的とした公務員副業制度の導入をすべきではないかと思いますが、市長の答弁をお願いいたします。

以上、3点について簡潔な答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員の質問にお答えいたします。

初めに、2期8年の市政に対しての市民の支持率、評価についてでございますけれども、一番分かりやすいのはこの市長選挙であったというふうに感じております。

市長選挙につきましては、投票率64.5%、投票総数1万5,270人で、そのうち87.1%の1万3,306人の選挙権を有する市民からの支持を頂いたと認識しておりまして、これまでの市政に対する私への一定の評価は得られたのではないかというふうに感じております。

しかしながら、この選挙戦におきまして、島内各地を回らせていただき、様々な市民の声を聞く中では、まだまだ多くの課題に対応していかなければならないと改めて実感したところでもあります。

今後も、市民の声を市政に反映することを原点として取り組みながら、島づくりに取り組んでまいります。

次に、人口減少により想像される対馬市の将来の姿や問題点は何かという質問でございますけれども、議員からの通告にもありましたように、国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月に公表した将来推計人口では、2050年（令和32年）には、対馬市の人口は1万3,326人まで減少すると推計されております。

議員御承知のとおり、本市の人口は昭和35年をピークに減少しており、令和2年の国勢調査

による人口は2万8,502人となっており、急速な人口減少、少子高齢化という大きな課題に直面している状況であります。

このまま人口減少が進んでいった場合、本市の人口は、2050年には現在の半以下になると推計されており、65歳以上の高齢者人口は総人口の50%を超え、年少人口、生産年齢人口は減少し、労働力不足が深刻化していくことが考えられ、社会保障費や老朽化したインフラ設備の修繕費等が増大し、逆に人口減少により税収は落ち込み、市の財政状況は一層厳しくなることが考えられます。

また、人口減少によりまして、保育所や幼稚園、学校の統廃合や地域産業の衰退、地域公共交通の縮小、空き家・空き店舗、耕作放棄地の増加、地域コミュニティの機能低下、行政サービスの低下などの問題が発生することが考えられます。

市としましては、平成27年度から対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、なりわいづくり分野、交流・移住・定住分野、結婚・出産・子育て環境分野、高齢者の生きがいづくり、住みやすいまちづくり分野の4つの重点戦略を掲げ、人口減少の抑制に向けた取組を進めているところであります。

今回、社人研より公表されました将来推計人口では、平成30年公表時と比較しますと、人口減少は少しながら緩やかになっており、人口減少の抑制に一定の効果が現れているものと思っております。

人口減少の抑制に効く特効薬はありませんが、まちづくりの根幹に関わる最重要課題として、市民全体で危機意識を共有し、今後も人口減少の抑制につながる取組を進め、子どもから高齢者までが住み続けられる持続可能な島を目指してまいりたいと考えております。

次に、地域貢献を目的とした公務員副業制度の導入についてでございますが、地方公務員は、地方公務員法第38条で営利企業への従事等の制限が定められております。これは、公務の能率の確保、職務の公正の確保、職員の品位の保持等のため、許可制が採用されているものであります。

一方、全国を見ますと、社会貢献活動に関する兼業について制度を定め、地域活動に関する兼業を積極的に推進している自治体も増加しつつあります。このような自治体では、公益性が高く継続的なもの、地域の発展、活性化、産業発展への寄与など、対象となる活動の基準が定められ、取組が進められています。

議員のおっしゃられる地域貢献活動とは、地域の限られた人材の中から、できる人ができることを行いやすくするため、公務員でも報酬を受け、その活動に参加できる制度を構築するべきであるとの御意見だと思っております。

現在、対馬市独自ではこのような制度は策定しておりませんが、法律の範囲内で、必要に応じ

て許可することで対応をしてまいる所存であります。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） まず、市長の支持率について、4 つお尋ねをしていきたいと思
います。

今回で、市長は3 期目の当選となりました。1 期目、2 期目、3 期目、それぞれ1 万票を超え
る票数であり、今回、投票率は前回より64.5%と少し上回りました。

しかしながら、今回の投票結果でも分かるように、8,400 人が投票には行かれていない。
その内訳として、この市長選挙に対して、20 代、30 代の若者、この辺の投票率がどうだっ
たかというのは、総務課のほうで集計等は出されていないのか、お尋ねをいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も、そのことについては詳しくは承知しておりませんが、投票
者の年齢構成とかそういったところまでは、調べることは不可能ではないかというふうには思
っております。

詳しくは、担当部長のほうから答えます。

○議長（初村 久藏君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） 今、市長がおっしゃられましたように、年代別の投票率、その辺に
ついては、集計は以前からもしておりません。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） していないということですね。まず、やはり若者が、この
8,400 人の中には、かなり投票に行っていない方がいると思います。その辺も今後、今、選
挙の投票率がだんだん下がってきていますので、それに向けて総務のほうでも、行政のほうでも、
そこは今後課題と思っております。

市長が、1 期目、平成28 年3 月28 日にまず就任をいたしました。その中で、市長がまず所
信表明で挙げられたことは、対馬は農林水産業の活性化が最優先課題であるということを述べら
れております。そして、ふるさと納税の有効活用を取り組んでいくということで、1 期目は終わ
られました。そして、2 期目の所信表明で、最重要政策は、市長、何と言われたか覚えていま
すか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今回は、3 期目の選挙で一生懸命でございましたので、2 期目のこと
までちょっと今思い出すことができません。申し訳ありません。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（１番 糸瀬 雅之君） 思い出すことができないという、市長は、２期目は、最優先課題は人口減少抑制対策です。これを最優先的にやるということで、市長は言われているんです。

その中で、市長は、目標とした人口減少対策をいろいろと第２次総合計画等でやられていると思いますけども、市長、やっぱり公約というのは、有言実行をすることがまず公約でありますので、今、市長就任時の人口が、当時、８年前３万２,３００人いました。対馬市の人口です。そして、この２０２４年２月末現在、約２万７,７００人ですか。約４,６００人、対馬市の人口は８年間で減少しております。このことについて、市長、２期目の公約、人口減少抑制対策ができましたか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） ちょっと私、今、面食らっております、２期目の重要公約というのはちょっと頭に出てきませんでした。

その中で、この人口減少問題につきましては、私も２期目一生懸命に取り組んでまいりました。これまで対馬市の人口減少の中で一番激しかったのが、平成１８年から２０年の間、この３か年の間は年間約１,０００人程度の人口減でありましたけども、ここ最近は、５００名から６００名の減というふうに減少をしてきているところであります。

そしてまた、この人口減少が少しずつ抑制をされたということにつきましては、今、市のほうでも一生懸命に取り組んでおります移住・定住施策でありますけども、この成果が現れてきてまして、ここ数年は１３０名前後まで増えてきておりますし、令和５年度では、今、概算で百五十数名まで移住・定住が上がってきているところでございます。

このようなことから、今、対馬市が進めております対馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略の施策が、一定の効果が出たのではないかと、現れたのではないかとというようなふうに私はっておりますし、先ほども答弁の中でも申し上げましたけども、前回の平成３０年の公表時、社人研の将来人口推計と今回の令和５年の人口推計を見比べてみますと、２０４５年には１,７０３人、その数字が抑制されているところでございますので、こういったところにも人口減少の抑制対策が、若干ではありますけども、現れてきているのではないかとというふうに捉えております。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） １番、糸瀬雅之君。

○議員（１番 糸瀬 雅之君） 市長、１期目は無難にこなされていた４年間だと思いますけども、２期目はやはり新型コロナの影響が３年近くございまして、一番苦しんだ観光関連の会社、そして飲食業界、医療従事者であったと私は思いますけども、その際の市長が対馬市のトップとして、コロナ対策に対して様々な国や県の支援、交付金、補助金等を投じてきたと思いますけども、それに対する市民からの市長に対する、市長御自身、コロナ対策についてはどうであったか、そこ

を少し答弁をお願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 市民からの御意見は、直接は頂いてはおりませんけども、ただ、コロナ対策交付金等で、特に水産業界のほうは燃油高騰と、コロナ対策等での価格下落の関係で、かなり減収と申しましょうか、所得減となっていたことに対しまして、燃油高騰の油の補助、そして、今やっておりますマグロの餌代への高騰への補助、そしてまたアナゴかご、そしてはえ縄等への餌代の補助といったようなことでは、今、漁業者のほうからは感謝の声が聞かれているといったところでございます。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 今、市長のほうから、漁業者のほうは感謝の声が聞けるということとされていますけども、一番コロナで、全国的にテレビ等であっていましたが、観光関連、飲食業、やっぱりそこら辺が一番苦しんでいたと思います。それは、一言も今市長は言葉になかったですね。水産のことばかりじゃなく全体のことをやはり考えないと、対馬市は、市長は、今後海ごみのほうで力を入れるということで、後でまたその辺は質問しますが、そのように全体のことを考えていなかった、私はそう思います。

次に、市長はやはり最大の争点であった高レベル放射性廃棄物の文献調査の受入れの問題、これが最大の争点でありました。市長は、議会の賛成多数に対して反対表明を2期目、9月に出されました。そして、その2年間で交付金20億円、そして概要調査4年間で70億円の交付金、6年間で90億円ということの財源に対しまして、市長がお考えである歳入計画をこの代替の90億円に対する、これを私は一度も市長の口から聞いたことがありませんでしたので、これを少しお答えください。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 今の質問は通告外で、私も準備も、資料も全く準備をしておりませんでした。

その中でお答えできることと申しますのは、要は、今現在、私自身としても、施策の中で、SDGs 未来都市への推進を大きく掲げてきております。そういう中、この対馬市の考え方、そしてSDGs 推進に向けた取組に御賛同をいただいたサラヤさんが、まず対馬市で海ごみの再資源化等に向けて新会社を立ち上げていただいた。そして、令和6年度においては、資金を投入されて、対馬ブルーカレッジを創設され、いろいろな島外からの民間企業と、そして市内の市民を含めたところでのブルーカレッジ構想が出ております。（「それじゃないです」と呼ぶ者あり）ちょっと待ってください。

それと先ほど、ちょっと私、議員のほうから、特に感謝の声がというような声があったもので

すから、ちょっと聞こえてきとった水産業界だけのことを言いましたけども、要は観光関連のほうにも、力抜くことなく交付金を十分に取ってきたというところで、観光関連の方からは、それなりに感謝はされたというふうに私は思っているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 分かりました。

次に、3 期目の件について、市長のこのパンフレット、リーフレット、ここにテレビも、これですか。皆さん、これ御存じだと思いますけども、市長は3 期目の公約で、世界最先端のSDG s 未来都市を海ごみの再資源化による有効活用で造るということに言われていますけども、この未来都市というのをもう少し、対馬のどこに造ろうと思っているのか、そしてまた何年後にこの未来都市が完成をしようという考えなのか、そこをもう少し市民の方にお願ひします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） このSDG s の取組の中で、SDG s 未来都市といったことが一つの単語でございます。決してこの未来都市をどこに造るとか、そういったことではございませんので、もう少しそこは議員のほうでも調べていただければなというふうに思っておりますし、今、長崎県下でいきますと、長崎県下21 市町の中で、壱岐市と対馬市だけが今SDG s 未来都市に選定をされている状況でありまして、今、対馬市はそれに向けて、そして、特にこの一番の課題であります対馬市の海ごみを、これを資源とするために取り組んでいこうということで、その取組を進めているところでありますので、御理解をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 1 番、糸瀬雅之君。

○議員（1 番 糸瀬 雅之君） 未来都市というのは、市長は単語である、単語というか、皆さんが呼んである未来都市ちゅうこと、それは私も分かっているんです。分かっていますけども、このような世界最先端という言葉、対馬に世界最先端の未来都市ちゅうのは、市民はどういった都市になるんだろうとやっぱり聞くんです。市長だけ、行政部局だけ、議員が分かっているも、市民は世界最先端の未来都市ってどういうふうな都市なんですかと、私に聞いてくるんです。私も、いや、それは市長に聞いてみないと分からんですよと言いますが、私は分かっていますけども、市長は、やっぱり市民はこの世界最先端と言ったら、どんな都市なんかなって、対馬がって、そう思うんです。それだけのことなんです。だから、これはあまり無理して市民にうたうことは必要ないと思います。

以上です。

そして、今回、市長は海ごみのほうで有効活用していくと言っていますけども、今、対馬市民が、SDG s も大事ですけども、優先順位が違います、市長。優先順位は物価高騰対策、いいですか、そして子ども・子育て政策、そして人口減少対策、これをやはり一番市民は、ほかの自治

体でもやはり取り組まれていますよね。いろいろと。学校給食の無償化とか、そういった物価が高騰している中で、やっぱり今市民は、SDG sよりも物価高騰対策を望んでいるんです。そこをもう少し考えていただきたい、私はそのように思います。

次に、人口減少のほうに移りたいと思います。

まず、人口減少は、市長は緩やかに回復傾向にあるということで、私はそのように今聞きましたけども、これは全くあり得ません。いいですか、市長、平成16年、対馬市合併当初、子どもの出生数、400人ぐらいいました。今現在、令和5年度の出生数、1月末現在ぐらいですけど、今年の、105人ぐらいしかいないんです。もう4分の1ぐらい、1年間ですよ、1年間で105人しかもう生まれない。

そして、令和元年度から5年間で結婚をした婚姻届、これちょっと少し調べましたけども、1年間平均60組ぐらいしか婚姻届は、結婚はできておりません。

そして、2月13日発表の、今年度です、長崎県の市町村の生産年齢人口15歳から64歳、対馬市で中核的な担い手として経済に活力を生み出し、社会保障を支える存在である人数ですけども、先ほど市長も言われたように、2020年の生産年齢人口は1万4,191人、2050年、もう5,300人ぐらいしか、生産年齢人口5,300人ですよ、2050年、働ける人。

それで、このような予想人口で、私は、市長がいつも言われていますように、移住者、未来都市、これの財源はどうしていこうかなと思っているのか、そこを、一番心配なのは財源です。この財源がなければ、このような未来都市を造ろうと言っても、まずあり得ません。形だけ未来都市、未来都市言っても、行政側も本当にできるのかなと不安で思われていると思いますよ、市長。

市長はこれをやっていこうと思われていますけども、私は、これはちょっとここじゃないんです、まずは。これも大事です。大事ですけども、やるべきことは物価高騰対策、人口減少対策をどうやっていくか、これは行政だけでは無理です。やはり議会そして一般市民を交えての人口、市長一人では私は無理だと思っています。

ですから、今後の将来像を見たときに、市長が対馬市の2050年の税収、今一般財源30億程度の税収を2050年度はどれぐらいを考えてあるのか、計画として、10年先でもいいんです。20年先でもいいですけど、まず10年先の税収、これ木寺総務部長でもよろしいですけども、分かれば、計画しているのであれば、どれぐらいの計画をしているのか、お願いします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 糸瀬議員と私では、やっぱり認識の違いが若干あるというようなこともございますが、まず、はっきり申し上げることができるのが、私も、決して私個人一人だけで人口減少対策ができるものではないというふうに認識しているところでありまして、これまでもこのことは行政のみではできませんと、市民の皆様そして議会の皆様の御協力をお願いしたいと

いうことで、申し上げているところでございます。

それとまた、これからの財源の関係で、税収が10年後、20年後幾らになるかということでございますけども、税収につきましては、なかなかこれは推計するということには、今まで至っていないということで、このことについては、ちょっとお答えは難しいということでございます。

それから、今後の、財源をいかに引っ張ってくるかというようなことでございますが、今現在ふるさと納税のほうも、今年度は約3億円程度まで、まだ僅かでございますけども、3億程度まで増加する見込みでございますし、来年度は5億円まで増加を目指しております。

これは、やはりそこに、委託事業者のほうを少し令和5年度に変更いたしまして、いろいろな関係で少しずつそれが増加傾向にあると。まして、他の市のほうも同じところでしているところでございますが、ここも、やはり先行した自治体では伸びてきているということでございますので、このことについては、また一生懸命に取り組を進めていきたいというふうに思っております。

そして2点目が、先ほども申しましたけども、サラヤさん、そしてまた他の事業グループ会社等が、対馬の負の遺産である海ごみを、これをプラスの遺産に変えていくと、再資源化していくということであれば、その製品の販売額だけではなくて、やはりそこには、スタディツアーとか、そういったところで、今対馬にもかなりのお客さんが見えてきているところでございますので、そういった関係の歳入と申しますか、市に直接は入ることではありませんけども、市の全体的な生産額と申したほうがいいのか。そういうことでは、増えてくるのではないかなというふうには思っているところでございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） 人口減少、これはもう対馬だけではなく、全国どこの自治体も取り組まれている。なかなかこれは、いろいろと厳しい状況であるというのはいまもう分かっております。

しかし、私なりに考える人口減少の問題点というのは、やはり高校卒業後、中学校から離れる子どもたちもいらいします。高校生、やはり若い女性が、島外への進学や就職が影響している。対馬に魅力ある働き場が少ない、対馬市独自の子育て支援や充実が必要であると。例えば出産のお祝い金とか、そういった若者の働き方改革、働き場が少ない対馬に帰ってきますかね。

若い女性に選ばれる島づくりを目指している自治体があります。そこは、やはり人口が少しでも増えております。やっぱり若い方の女性です。女性をターゲットにした島づくりをぜひ市長には進めていただきたい、そのように思います。

今、テレビやニュース等で、熊本県のTSMC、台湾の半導体工場、そこまでとは言いませんけども、あのような事業費が3兆円規模の、国の補助金等も含めて、そういった企業を持ってこいとは言いませんけど、なかなか難しいかもしれない、対馬には。それを目標に市長、ぜひこの

4年間集大成で取り組んでいただきたい、私はそう思います。

人口減少は、もうやはり市長、ほかに市長部局、部長あたりだけでは、これはもう全体でやっ
ていかなければならない取組だと私は感じております。ぜひ、一緒になって頑張っていきたいと
私たちも思っておりますので、よろしくお願いします。

最後、対馬市の人材、対馬市職員の公務員副業制度ということで、先ほど市長も言われました
地方公務員法第38条、職員は市長の許可を受けなければ、営利を目的とした企業や報酬を得る
ことは禁止をされております。

これ、ちょっと確認なんですけども、今、対馬市の職員で、月額会計年度任用職員、日額会計
年度任用職員とかいいますけども、日額会計年度任用職員は、副業は、これは大丈夫なんでしょ
うか。

○議長（初村 久藏君） 総務部長、木寺裕也君。

○総務部長（木寺 裕也君） 地方公務員法第38条にもありますが、非常勤職については、こ
れは大丈夫になっておりますので、実際副業している方もいらっしゃると思います。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） それは、日額のほうは大丈夫ということですよ。分かりました。

今、対馬市職員の皆様も、五百数十名いらっしゃいます。職員も、土曜日、日曜日、祭日等、
業務には支障があってはならないと私は思っておりますけども、今対馬市は人材不足でいろんな
職場で不足をしておりますので、少しでも手助け等ができればいいんじゃないかなと思いますけ
ど、先ほど答弁で進めているという答弁でしたよね、これは、でしたかね。（「今現在です」と
呼ぶ者あり）今現在、分かりました。前向きに考えられているということですよ。分かりまし
た。

特に今韓国人観光客等で、飲食店とか、宿泊施設とか、とにかく働き手が不足をしております。
介護関係でも、いろいろな介護施設とか、そういったところで職員の不足というのがやっぱり出
ておりますので、少しでもそういった緩和措置が市の職員で取れば、お願いしておきます。

それと今後、中学校の、これは教育長のほうなんですけど、部活動の移行が取り組まれている
と思いますけども、土曜日、日曜日と、中学生、今度地域移行ということで、市の職員、団体職
員等に監督、コーチ等を、今後そういったのを任せていく。今でももうやられている部活動があ
ると思いますけども、これは報酬が今は発生しておりませんので、そこら辺を踏まえて、今後の
部活動の動きについて、少し教育長のほうから答弁ができましたらお願いします。

○議長（初村 久藏君） 教育長、中島清志君。

○教育長（中島 清志君） 部活動の地域移行に関するお尋ねだと思います。令和8年度以降で
きるだけ早い時期に、土曜・日曜日の部活動に関しては地域移行を進めていくということで、今、

計画を進めております。

土日については、例えば学校の教員であれば、学校の教員という立場ではなくて、例えばそれを運営する母体から雇用されて、そして、そこで部活動の指導を行うということで報酬が発生してきます。

教育公務員特例法という法律があって、この第17条だったと思いますが、この中で、教職員は自分の研さんに関する事、自分のためになる事に関しては、兼職兼業が認められております。

したがって、部活動の指導に当たっても、これに該当するかと思います。既に他の自治体においては、この制度の整備が進んでいるところもありますので、これに倣って対馬市でも進めてまいりたいと思っております。

先ほどおっしゃった市の職員に関しても、もし協力が頂けるような体制になれば、既に部活動の指導とかの経験がえられる方もおられますので、大変ありがたいと思っております。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） こういった子どもたちのために、職員がしっかりと報酬を頂いて、土曜日とか日曜日、その辺で力を貸していただけるということは大変ありがたいことだと思っておりますので、ぜひこの公務員の副業制度は早急に、今年度が厳しいんだったら来年度からでも導入を検討していただきたいと思います。

そして、もう時間がございませんので、市長に最後にお尋ねをしたいんですけども、市長が4年前の選挙のときに、対馬各地、島内を回られたと思います。選挙期間中ですよ。今回、4年後、4年がたってまた対馬各地を、対馬を選挙の期間中回られたと思います。今回、4年ぶりに回られたところもあると思います。そこをまず過疎化していつていると思います。市長、この現状をどう思われましたか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 4年前というよりも、むしろ8年前と比べてみますと、かなり空き家の数が増えてきているなということは、事務所のスタッフと共に話をしたところでありまして、高齢化が進んでいるということで、選挙カーで回ったときにも、若い方よりも、むしろ後期高齢者の方たちが中心になって出てきていただいたということで、対馬市も高齢化が進んだなということを改めて感じさせていただいたところでございます。

○議長（初村 久藏君） 1番、糸瀬雅之君。

○議員（1番 糸瀬 雅之君） そのように市長はもう考えてあると思いますので、今後4年間の集大成は、将来の対馬を左右する市長の政策でございまして、誰一人取り残さない政策に精いっぱい取り組んでいただきたいと思います。よろしくお願いします。

私の質問は、これで終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、糸瀬雅之君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 昼食休憩といたします。再開は1時5分からといたします。

午前11時54分休憩

午後1時05分再開

○副議長（春田 新一君） 再開します。

報告します。初村議長から早退の届出がっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。10番、小島徳重君。

○議員（10番 小島 徳重君） 皆さん、こんにちは。10番議員、対政会の小島徳重です。

質問に入ります前に、3月3日の市長選挙において見事、3選を果たされました比田勝市長に心よりお祝いを申し上げます。得票率88.5%という圧倒的な数字が示すように、対馬市民は比田勝市長に全幅の信頼を寄せ、これから4年間の対馬市のかじ取り役を託しました。市長の信条であられる守・破・離の理念で言えば、3段階目の離は、これまでの実績を踏まえ力強い施策が打ち出されるものと多くの市民が期待をしています。健康に留意され活力ある対馬づくりに邁進されてください。

それでは、通告に従い、2項目6点お尋ねします。

1項目めは、健康寿命の改善についてお尋ねします。

今ここに、パネルに示しておりますけれども、市長は今般の選挙に当たり、公約として5つの未来創造戦略を掲げられました。その1、守るものとして、全ての人に健康と福祉をと訴えられ、その中で、健康自治体・健康寿命の改善を真っ先に挙げられています。長崎県は「健康寿命日本一」に向けた取組を実施していますが、皆さん御存じのとおり、男女とも全国平均には至っていないという現状があります。その中でも、対馬市は下位のほうに位置しているという実態があります。誰一人取り残さない持続可能な島づくりを目指される比田勝市長が、市民の健康づくりに取り組もうとされる決意を示されたことに共感を覚え、その施策の展開に期待をしています。対馬の健康自治体・健康寿命の課題はいろいろあると思いますが、その課題の解決策についてお尋ねをします。

2項目め、対馬市の近代化遺産のうち文化財指定関係、それから文化財の活用について、これは主に教育委員会のほうになるかと思いますがお尋ねをします。

1点目、対馬の近代化遺産に特に砲台群等の文化財指定については、平成31年4月に姫神山砲台跡が対馬市の文化財に指定されました。その際、出された近代化遺産調査研究部会の報告に